

第二十四回医学史研究会  
日本医学史学会関西支部（昭和五十九年秋季）  
合同総会

とき 第一日 昭和五十九年十一月十七日（土）午後一時

第二日 昭和五十九年十一月十八日（日）

午前九時三十分

ところ 大阪市北区中之島四丁目

大阪大学医学部 二階会議室

プログラム

《第一日》

- I 要望課題 第二次大戦下の保健医療
  - 一、総説……………中川米造
  - 二、総力戦体制下の医学と医療……………神谷昭典
  - 三、第二次大戦下の保健・医療
    - 医療技術の側から……………川上武
  - 四、戦時下の軍委託研究……………宗田一
  - 五、第二次大戦下の労働衛生
    - 労研出版物を中心に……………三浦豊彦
  - 六、農村医療と国民健康保険法……………松田武
  - 七、第二次大戦下の保健・医療
    - 病院・療養所で……………小坂富美子
  - 八、臨時附属医学専門部の創設……………松田武
  - 九、結核予防……………小松良夫

十、日本の優生学……………鈴木善次

《第二日》

- I 一般演題
  - 一、金元医学の史的背景についての一考察
    - ……………山本徳子（横浜市大）
  - 二、淡輪本解剖図巻について
    - ……………宗田一（杏雨書屋）
  - 三、京都での海上随鷗の開塾時期について
    - ……………森納（鳥取県）
  - 四、江馬塾頭・野川杏平について
    - ……………青木一郎（岐阜県）
  - 五、原老柳・松本俊平と大阪除痘館
    - ……………古西義麿（大阪市立此花図書館）
  - 六、臨時脚気病調査会……………佐久間温巳（西尾市民病院）
  - 七、適塾門弟調査から
    - 「藤井秀達」をめぐって
      - 医師の社会的地位の変遷(3)
        - ……………今村雄一（堺市）
  - 八、松郷<sup>まつごう</sup>矩明の洋印について
    - ……………岩治勇一（大野市）
  - 九、明治十二年コレラ騒動について
    - ……………加藤浩伸（大阪府立大）
  - 十、B・W・リチャードソンについて

.....栗本宗治(大阪医科大)

十一、尾鷲大庄屋文書にみる船頭水主の病氣・死亡について  
.....茅原弘(津市)

十二、医院雑誌と東京薬学新誌について  
.....寺畑喜朔(金沢医大)

十三、我国における戦前の薬学教育  
——大阪薬学専門学校と大槻式を中心として——  
.....三宅宏司(大阪教育大)

十四、大正初期、北海道における移動医師・永富謙蔵  
.....末中哲夫(京都教育大)

十五、齊藤勝寿と鷗外・補遺(資料展示)  
.....丸山博(箕面市)

十六、吉田顕三のこと(第三報)  
彼の寄附行為について(資料展示)  
.....丸山博(箕面市)

十七、京都帝国大学ニ小兒保健衛生研究所設置に関する建議案  
について.....今村雄一(堺市)

十八、シルビウス(一六一四—一六七二)とジュネーバ  
(蒸溜酒).....石田純郎(三菱水島病院)

H・ボイケルス(ライデン大学)

H・E・ヘンケス(ロッテルダム大学)

日本医史学会関西支部昭和六十年春季大会  
中野操先生米寿記念の会

とき 昭和六十年四月二十一日(日) 午前十時より  
ところ 大阪市東区馬場町二番十二号  
大阪共済会館二F

一般演題

一、「ピリリ考」後日譚：宗田一(京都市)

二、ドーフル散考.....栗本宗治(西宮市)

三、医と政治・英国二十世紀の例  
.....栗本宗治(西宮市)

四、鳥取藩南条女成家資料について  
.....森納(鳥取県)

五、「増補改正訳鍵」について——その出版経過  
.....岩治勇一(大野市)

六、「甘肅彩陶」の鋸歯文について  
.....杉本茂春(大阪市)

七、大阪にあるアンブローズ・パレの資料から解ったこと  
.....大村敏郎(慶応義塾大学  
医史学研究室)

八、長崎におけるマンズフェルトの外科学講義  
.....蒲原宏(県立ガンセン  
ター新潟病院)

九、明治初年の救癩施設：佐久間温巳(西尾市民病院)

十、ポードイン書簡について